

令和 5 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和 5 年 7 月 13 日（木）14：00～16：30

場 所：WEB（ZOOM）会議のため、各施設にて

出席者：14 名

仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、玉城佐笑美（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、糸数真理子（那覇市立病院）、伊禮智則（那覇市立病院）、横田美佐（県立宮古病院）、岩崎奈々子（県立八重山病院）、島袋百代（ハンキョウジャパン沖縄アフィリエイト）、樋口美智子（沖縄国際大学）、西村克敏（地域統括支援センター）、小波津真紀子（沖縄県保健医療部）、増田昌人（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）、友利晃子（琉球大学病院）

欠席者：2 名

上原弘美（友愛医療センター）、富里果林（南部医療センター・こども医療センター）

陪席者：3 名

有賀拓郎（琉球大学病院）、比嘉優花（琉球大学病院事務）、松田亮子（琉球大学病院事務）

【報告事項】

1. 令和 5 年度第 1 回情報提供・相談支援部会議事要旨(令和 5 年 5 月 18 日)

資料 1 に基づき、仲宗根委員より、令和 5 年度第 1 回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

【協議事項】

1. 2023 年度版「おきなわがんサポートハンドブック」について

資料 2 に基づき、増田委員より、意見集計の報告後、要望事項について協議した。

- ・情報量は少し絞ってもいいと思う。細かく丁寧に連絡先や時間帯まで書いているのでその部分は減らすなど。第 3 部は削除という意見があるが、面談で介護や医療費、緩和ケア病棟の話など多岐にわたる為、全体が網羅されているこの 1 冊で説明できるのはいいと思う。（仲宗根委員）
- ・情報量は患者さんや家族によると思うが、患者会の参加者はこの冊子を網羅している方が多くこの冊子のおかげで助かったとの意見もある。高齢の方からはインターネットで調べられないので非常に役立ったとの意見もあった。（島袋委員）
- ・お金について心配をされる方が多い為、第 3 部は残せるといい。簡略化した時に内

容が少なくなりすぎるとより手に取る方がいなくなるのではないか。(伊禮委員)

・冊子はあくまでも入り口で、よりしっかりした情報提供は相談員で行うという意識である為、この情報量でいいと思う。(友利委員)

・年齢の高い方向けということだが、病気になったときがんについての情報を知ることができたので若い人でもこれだけいろんな情報があると使い勝手はいいと思う。
(西村委員)

2. 認定がん相談支援センターの認定取得について

資料3に基づき、友利委員より、認定取得について説明があり、沖縄県で認定を受けている施設がない理由について情報共有することとなった。

○琉大病院が取得できない状況として、認定がん相談員を2名以上安定して確保できないこと。また院内でのモニタリングの実施について、相談者に録音の同意を得る、録音の機械が必要などモニタリングの整備ができていないこと。その他、4年ごとに費用が10万円かかる。

○那覇市立病院

認定がん相談員3名。認定取得するための予算をどうするのか、相談員を兼務しながらやっているため相談員だけでは認定に向けての活動はできない状況である。

○中部病院

認定がん相談員はいないと思う。認定取得についての話もでたことがなく今回初めて知った。

○北部地区医師会病院

認定がん相談員3名、相談員以外で看護師にも認定をとることを進めているが業務の都合上進んでいない。認定施設に関して話は出ていない。

○八重山病院

認定がん相談員はいないが、今後勉強していきたい。当院は認定施設について知らないと思う。

○宮古病院

認定がん相談員2名、認定施設について初めて知った。施設の要件から電話の録音など考えると今の状況では難しいと思う。

3. 外来初診時等の訪問体制整備について

資料4に基づき、増田委員より、外来初診時等の訪問体制整備について説明があり、友利委員より補足があった。

琉大病院では、がん相談支援センターの外来予約枠導入についての通知文を作成し周知した。また、治療開始前、次の治療の予約とあわせて、相談支援センターの予約も取っていただくよう各医局へ協力依頼。相談支援センターの場所については、リーフレッ

トを作成し、各外来の先生方のデスクや受付に置いて初診予約時に渡すよう依頼。来所状況は12月から5月までの集計で予約が105件、来所者が83件。そのうち半数は、相談支援センターに立ち寄って、がん相談支援センターのパンフレット、ゆんたく会、がんサポートハンドブックなどの資料を渡しながらか所の案内と利用についての説明のみの方。残り40件は、治療費の高額療養費や限度額などの相談もあった。紹介率は12%となっている。

4. がん相談員実務者研修会の開催について

資料5に基づき、大久保委員より提案があった。9月に第1回実務者研修会を那覇市立病院で対面開催。10月に中部病院、12月は琉大病院で開催することについて承認された。

5. 患者サロンへのピアサポーター受け入れおよびピアサポート活動について

資料6に基づき、増田委員より提案があり承認された。

6. 「出張 ピアサポート（仮称）」の開催について

資料7に基づき、増田委員より提案があり、地域統括相談支援センターの喜瀬さんより補足説明があった。北部地区医師会病院、県立中部病院、那覇市立病院の一室をお借りし、ピアサポーターが出張し個別相談を開催したい。ピアサポーター3名参加予定。運営や問合せ、チラシ、広報等は地域統括相談支援センターで行う。各病院スタッフの参加はないが、会場の確保と出張ピアサポートの広報のご協力をお願いしたい。

【報告事項】

2. 地域統括相談支援センター活動報告

資料8に基づき、西村委員より報告があった。相談内容は治療・検査についての相談が多かった。琉大病院、那覇市立病院、中部病院の患者サロンへピアサポーターを派遣し参加した。中部病院では、つぶやきノート（交換ノート）という自身の思いを吐き出せるノートを始めたとのこと。いいアイデアなので地域統括でもホームページを活用し提供していきたい。オンラインゆんたく会では、那覇市立病院、中部病院の相談員も参加し、患者さんは各回2名程の参加があった。自己紹介から始まり近況報告、悩みについての話があった。また、6月18日開催のがんピア・サポーターフォローアップ研修会についての報告があった。がんピアサポーターの資質の向上、今後のピアサポート活動に役立てられるよう、基礎知識の再確認、コミュニケーション技術の復習を目的に開催。参加者13名。ロールプレイでは6セッション行った。研修会はスムーズに開催することができたが、休憩時間、ロールプレイでの自己紹介がうまく組み込めなかったなど課題がのこった。

3. がん患者ゆんたく会（4～6月）

資料 9-1～9-3 に基づき、令和5年4月～6月に各拠点病院にて開催された、がん患者ゆんたく会について報告があった。中部病院は玉城委員より報告があった。がん経験者と話がしたいという参加者が多かった。継続の参加者からは、一人で悩まないでとの声掛けがあり、がんの経験者からの言葉が励ましとなっていた。今年から参加者の要望で、ゆんたく会に参加できない患者さんとも情報共有したいということで、つぶやきノート（交換ノート）を始めた。4月のゆんたく会で紹介し参加できない方も繋がっている。6月は短冊を作って飾った。那覇市立病院は糸数委員より報告があった。5月に開催。初めて参加の方が3名で合計9名の参加。テーマは『ソーシャルワーカー・がん看護専門看護師ってどんな人』について。フリートークでは、参加者から、がんと診断されて、周りに腫れ物のように扱われ傷つき不安になると話があり、参加者の体験での対処方法、ピアサポーターさんの経験を語っていただいた。参加者の中にはピアサポーターに興味をお持ちの方もいた。次回は7月に医学療法士、作業療法士によるミニレクチャーを開催予定。琉球大学病院は友利委員より報告があった。4月は薬剤師によるがん治療とお薬について、5月はピアサポーターの体験談の講演。6月は社会保障制度について、主にごがんサポートハンドブックを用いて講義。フリートークではアピアランスのウィッグについての相談が増えている印象。今後も感染対策し対面で開催予定。パンキャンジャパン沖縄は島袋委員より報告があった。6月に、なは市民活動支援センターで開催。膵臓がんの放射線治療について、那覇市立病院の足立先生による講義。ハイブリットでの開催でオンライン5名、会場8名の参加。交流会では、浦添総合病院の伊志嶺院長先生と患者さんで会話をしていた。患者さんからの感想で、放射線治療についての講演がないので聞くことができよかったですとあった。また、経過についてピアサポーターと話し希望を持つことができたという方もいた。その他、電話相談が2件あった。

4. がん相談件数（4～6月）

資料 10-1～10-7 に基づき、令和5年4月～6月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。

○北部地区医師会病院（仲村渠委員）

相談内容に変化はなく、緩和ケア病棟の相談が増加している。緩和ケア病棟が満床で患者さんへの対応が間に合わないことがあった。

○県立中部病院（玉城委員）

院内からの相談、2回目以降の相談が多い。相談内容は、治療終了の告知を受けた患者や家族の療養先の意思決定支援、在宅療養、ホスピスについての相談があったが、ホスピスの面談調整に時間がかかった。セカンドオピニオンやがんゲノムなどの紹介も

あった。がんと診断された方で不安の強い方への対応が難しく、がん相談支援センターのメンバーや主治医、病棟で情報共有し支援を行った。

○那覇市立病院（仲宗根委員）

相談内容は在宅医療、医療費の相談、介護保険の相談が上位で、それに伴い訪問診療、訪問看護、ケアマネの連携も増加。4月は他施設への連携も多かった。不安や精神的苦痛の相談も上位になっている。5月、6月は医師からの紹介が増加している。ソーシャルワーカーが減った影響で5月、6月は相談件数が減少したと考えられる。

○県立宮古病院（横田委員）

4月は相談員の入れ替えがあったため減少。がん相談に関わった相談員のメンタルについて精神科の医師と心理士によるサポートをしてもらった。今後、相談員としての対応について考えることがあると感じた。

○県立八重山病院（岩崎委員）

今年度、相談員が増えたため相談件数が増加。相談内容は変化なし。6月にチャイルドライフスペシャリストからアドバイスをいただきながらサポートした事例があった。今後、妊産性について琉大病院、友愛医療センターへ相談させていただきたい。

○琉球大学病院（大久保委員）

治療前の予約対応が始まったことにより、20歳未満の小児の患者さんの保護者からの相談が増えている。初回治療前で入院中の方の件数が増加。治療状況は、治療前の割合が増えている。不安の相談、医療費の相談、休職中に使用できる制度についての相談が上がってきている。また、初診時の段階から進行期の方もいて、心理的な対応をしたり、入院中で状況について話に来る方もいた。院外からの相談内容の集計では、他院患者51名で外来通院中の方が多い。相談入手経路はインターネットからが多く、がんサポートハンドブックの割合も多い。相談者は家族が多く、ほとんどは1,2回の問い合わせだが中にはリピーターもいる。

○オンライン実施状況（大久保委員）

琉大病院では、年末から実施できるようになった。2件の申込みがあったが、1件は使用方法についての問い合わせがあり、そのまま電話相談になったためオンライン相談は1件となる。中部病院の実施状況について、大久保委員から質問があった。玉城委員より、琉大病院を参考に準備しているが現在0件で、電話の対応が主になっていると回答。オンライン申込み方法について、琉大病院がん相談支援センターのWebサイトからオンライン相談申込専用ホームで申込みをする。また、利用規約について事前に確認

するようになっている。中部病院は、がん相談支援センターの Web サイトにオンライン相談の QR コードがあり申込みできるようになっている。

5. がん相談件数集計（令和 4 年度）

資料 11 の通り、各拠点の相談件数集計の統計表に基づき友利委員より報告があった。利用時間は、15 分以内または 15 分～30 分以内が多い。入手経路は、担当医からの紹介が増加している。利用回数は、リピーターが多く初回の相談も増えてきている。患者の受診状況は外来が多いが、那覇市立病院は外来と入院中の方であった。治療状況について、治療中が多く治療前の方も増加している印象。また緩和ケアの方も多い。がんの部位について、全体としては大腸がん、肺がんが多いが、琉大病院は婦人科系、中部病院は中皮腫、乳房、原発不明の方、北部地区医師会病院は縦隔・心臓、膵臓がんの相談が多かった。相談内容は、不安・精神的苦痛に対する相談、琉大病院はホスピス、緩和ケアが多く、中部病院はゲノムの相談件数が多い印象だった。

6. がん相談支援センターの広報

資料 12 に基づき、がん相談支援センターの広報について友利委員より報告があった。昨年度の 12 月より掲載依頼を月一回ではなく、毎週掲載するよう依頼することになった。引き続き広報依頼を行う。

7. 第 20 回都道府県がん診療連携病院連絡協議会情報提供・相談支援部会報告

資料 13 に基づき、友利委員より第 20 回都道府県がん診療連携病院連絡協議会情報提供・相談支援部会の報告があった。

PDCA 実施状況チェックリスト改訂、アピアランス支援モデル事業の説明、愛媛県がん診療連携協議会が運営するがん情報のポータルサイトに関する取り組み報告等があった。事前に PDCA 実施状況チェックリストに関するアンケートがあり、それをまとめた発表では特に重要な 10 項目が挙げられていた。チェックリストは項目が沢山あるため、項目の統合や削除し運営していく必要があるなどの意見があった。その他、アピアランス支援センター長（臨床心理士・公認心理）による講演があった。

8. がん相談支援センター相談員研修修了者アンケート調査結果報告

資料 14 に基づき、友利委員より報告があった。

アンケートを 91 施設に依頼し 21 施設から回答があった。基礎研修修了者は 41 名だった。従事形態は、専従・専任が 14 名、兼任が 12 名となっている。1 週間あたりの相談件数は 1 件以上 10 件未満が大多数で、10 件以上 20 件未満が 10 名ほど。自由記載の地域特性、がん相談の現状・課題では、相談室があるなどの周知やがんセンターの知名度が低い。マンパワーが不足している為、医師や患者さんと家族間の問題の対応が難

しい。がん相談の記録や、集計の様式がない為、残しづらい等の意見があった。がん相談に携わる相談員としての学習課題では、面談技術をアップしたいとの意見が多かった。在宅医療や介護保険は情報提供できるが、難病や身体障害者手帳の取得について対応できなかったなど、社会福祉の資源について勉強を重ねていくことが課題との意見があった。

- ・次回開催は、令和5年10月26日（木）14時から開催。